

第 3 回千代田区エリアマネジメント団体ガイドライン 検討会における委員指摘対応表

千代田区エリアマネジメントのすすめ たたき台について

意見	委員	⇒事務局の返答 ■対応済 ■対応予定
○ちよだ生涯学習カレッジの講座と連携を図っていくと良いのでは。卒業した方をエリマネに取り込んでいくと良いのではないかな。	細木委員	■参考の中で、千代田区の既存制度を整理
○支援や認定制度に関しての前向きな姿勢や、参考のまちづくりプラットフォームに関する記述などはアピールしておいた方が良い。	丹羽委員	
○区がされている取り組みを応援するようなメニュー出しがあると、この冊子やコンテンツが良くなると思う。	丹羽委員	
○千代田区というエリア内には、部局や分野を超えて多様なエリマネをサポートするような組織や仕組み、つながりが存在するため、それらを把握しておくといざというときに助けになるのではないかな。また、そのような内容が本書へ盛り込まれていると良いと感じた。	野原委員長	■第3章や参考の中で、支援策や千代田区の既存制度を整理
○第2章の「③エリアマネジメント団体の設立」のメリット、デメリットの記載があるように、区の認定団体となることのメリットの記載があると良い。	品川委員	■団体認定制度については第3章の2エリアマネジメントの支援策に整理 ■団体認定制度の詳細は次年度以降に検討予定
○地域コーディネーターが区から委嘱されているという点で信用付与があり、地域との合意形成や企業との連携がスムーズに進んでいる。団体や個人であっても区の信用付与があるとよいのではないかな。	小林(加)委員	
○エリアマネジメント団体が安定的・継続的に実施していくのであれば、規制緩和、財政的支援ができるよう団体を認定する仕組みを整理していくとよい。	印出井委員	
○第4章のエリマネやマッチングの支援策等は深掘りをして議論する必要があるため、来年度に引き継ぐところを明確にすると良い。	長谷川委員	
○第2章の「③エリアマネジメント団体の設立」に記載の法人格に近い、かっちりとした要件がなければエリマネ団体ではないのか、というイメージが共有できていなければならない。	野原委員長	
		⇒参考に地域団体等の状況として既に組織化されているものをまとめている。 ■第3章の1のエリアマネジメントのステップにおいて、法人格を有しなくても活動できるステップと法人格を有するような

意見	委員	⇒事務局の返答 ■対応済 ■対応予定
○ステップ2、3あたりのグラデーションなど、精緻にどういう意味かわかるように記載すると、わかりやすいのではないか。	野原 委員長	組織化のステップを分けて明記
○ステップ3以降、ステップ4で必要に応じて法人格の取得を促し、p35の区の認定制度で活動を認定してもらおうと様々な支援が得られるという流れにすると良いのではないか。 また、ステップ2のあたりから小さな活動（社会実験）が発生してくる。活動が日常化し、活発に取り組む先に法人化というイメージが分かりやすいのではないか。	長谷川 委員	
○都市再生推進法人は頑張れる人が目指せば良い。目指す必要がない団体など、その手前を広く拾う仕組みがあると良い。	野原 委員長	
○既存の枠組みもエリアマネジメントであるが、本書ではさらに一歩進もうとしていることが明示され、伝わると良い。	重松 委員	■第3章の1のエリアマネジメントのステップを細分化
○ステップは実施後に理念に戻ることも述べておきたい。ステップが繰り返すことで向上していくことが重要である。	重松 委員	■ステップの図を修正
○第3章の1の「町会・商店街における連携のイメージ」の「補いながら実施します」は「対等なステークホルダーとして役割分担で実施する」の方が良いのではないか。「補う」とすると資源的な関わりに見えるため、まちづくりの議論に関わっていくステップのところで、住民以外の意見も取り入れながら取り組んでいくような思想を記載してはどうかという意見である。	重松 委員	■文言を修正
○第2章の「①議論の場を作る」の1つ目の◆に、関連する主体（ステークホルダー）を「巻き込み」とあるが、「持ち寄る」という表現が良いのではないか。	矢部 委員	■文言を修正
○第1章の「エリアマネジメント活動の実施主体のイメージ」に、「個人は地域団体等へ参加、連携」とあるが、個人の人は受動的に参加するだけでなく、主体的に取り組む人もおり大事なプレイヤーであると思う。個人のプレイヤーを活かされるようなエリアマネジメント活動が地域のつながりづくりにもなると思う。	矢部 委員	■文言を修正

意見	委員	⇒事務局の返答 ■対応済 ■対応予定
○キャッチフレーズ(エリアマネジメントのめざすもの)のよいまちの定義は広い視点を考えてしまうと難しいと思う。	小林(加)委員	■キャッチフレーズを「よいまちにするために、みんなの力やまちの資源を結集する」に修正
○キャッチフレーズ(エリアマネジメントのめざすもの)は、「よいまちにするために、みんなの力やまちの資源を結集すること」の方が、まちの人だけでなく公共空間の活用が含まれて良いのではないか。	長谷川委員	